

松山窯

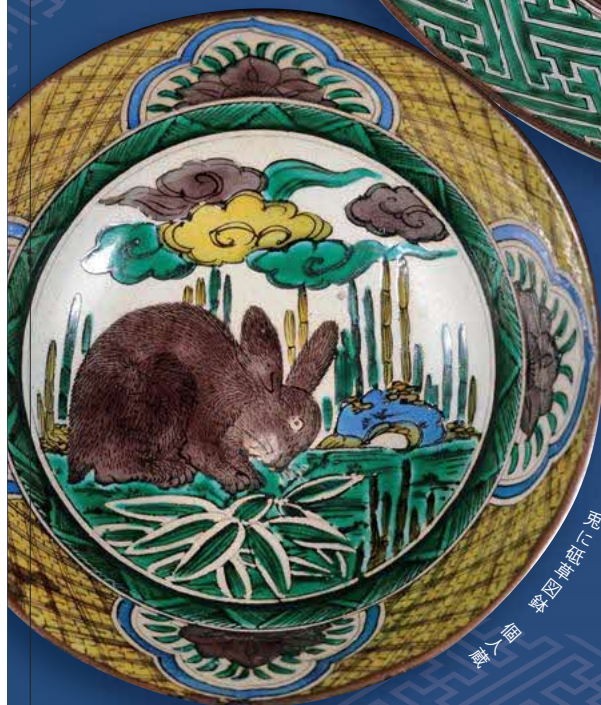
古九谷の再興
— 閉窯一五〇年 —
大聖寺藩御用



松山窯に在りて作られた熊と松の図 個人蔵



浦島太郎に鶴仙人図 大平鉢 個人蔵



野人面 繁野野原の野 個人蔵

石川県九谷焼美術館

前期展

令和5年

9月16日(土)

令和5年

11月26日(日)

11月28日(火)～12月1日(金)は展示替えのため臨時休館

後期展

令和5年

12月2日(土)

令和6年

1月28日(日)

会期中のイベント

① 前期展ギャラリートーク

開催日 / 9月16日(土) 13時30分～14時30分
 講師 / 当館学芸員 参加費 / 入館料

② 煎茶花月菴流「花野茶会」立礼席

開催日 / 9月24日(日) 10時～15時
 呈茶料 / 一般700円、石川県九谷焼美術館友の会会員500円
 定員 / 90名(事前申込制) 申込先 / さろんど九谷 0761-72-6366

③ 鼎談「京都・山中の塗物と焼物」

開催日 / 11月4日(土) 13時30分～15時(入場無料)
 講師 / 十三代中村宗哲氏 × 四代諏訪蘇山氏 × 三代高葉泉齋氏
 定員 / 50名(事前申込制) 申込先 / 当館 0761-72-7466

④ 後期展ギャラリートーク

開催日 / 12月2日(土) 13時30分～14時30分
 講師 / 当館学芸員 参加費 / 入館料

⑤ 講演会「陶芸と漆芸」

開催日 / 12月9日(土) 13時30分～15時(入場無料)
 講師 / 更谷富造氏(漆芸家)
 問合せ先 / さろんど九谷 0761-72-6366

松山窯(嘉永元(1848)年～明治5(1872)年頃)は、再興九谷の一つです。大聖寺藩前田家は、江沼郡松山村(現在の加賀市松山町)において、山本彦左衛門に命じて主に藩の贈答用品を制作する窯を開きました。藩の御用窯であり、御上窯ともいわれました。開窯時の藩主は第11代利平で、第12代利義、第13代利行、第14代利昭と続きました。

文久末(1863)年頃からは藩の保護が離れ、その後衰退期があり、明治元(1868)年頃から明治5(1872)年頃までは、民営として木下直正が窯を受け継いで操業していましたが、その後は自然と閉窯しました。

松山窯からは、大蔵清七、浜坂清五郎、北出宇与門、東野惣次郎、本谷半与門など、明治以降に独立し、活躍した窯元や名工が多く出ています。

このたび、民窯で終えた松山窯閉窯の150年という節目の年を迎えたことから、主に地元で伝世する松山窯作品を一堂に披露する特別展を企画いたしました。結果、合計211件(649点)という史上最多数の松山窯作品が集まり、この他、比較対象として同じく再興九谷の小野窯の青手作品合計8件(48点)を展示いたします。また今回、これまで未着手だった加賀市所蔵分の松山窯からの出土資料を整理し、その一部を紹介いたします。特筆すべきは、松山窯作品のまとまった図録が今回はじめてつくられたことです。この機会に、松山窯の名品の数々を一人でも多くの方々にご覧いただき、その魅力や偉業が広く知られ、松山窯に対する研究が前進することを期待いたします。

開館時間：9:00-17:00(入館は16:30まで)
 休館日：月曜(祝日、年末年始は開館)
 ※11月28日(火)～12月1日(金)は展示替えのため臨時休館
 本展入場料：一般1000円/団体(20名以上)800円
 高齢者(75歳以上)500円/高校生以下・障がい者等無料
 ※本展開催中に、常設展示室のみに入場する場合は通常料金
 アクセス：加賀ICから車で10分 / JR大聖寺駅から徒歩8分
 〒922-0861 石川県加賀市大聖寺地方町1-10-13
 TEL.0761-72-7466



- 1 山水家屋に周囲松葉散し図平鉢 個人蔵
- 2 団龍団梅図平鉢 個人蔵
- 3 滝山水舟人物図平鉢 個人蔵
- 4 百合撫子図十六角輪花平鉢 個人蔵
- 5 宝珠に朝顔図鉦鉢 個人蔵
- 6 色紙割山水帰帆図小皿 個人蔵
- 7 雪中筍人物図小皿 個人蔵
- 8 蕪図小皿 個人蔵
- 9 観世流謡本図小皿 個人蔵

古九谷の再興

— 閉窯150年 大聖寺藩御用

松山窯

鼎談講師プロフィール



なかもらそうてつ
 十三代中村宗哲氏(千家十職・塗師)

京都市生まれ 父三代諏訪蘇山・母十二代中村宗哲の二女
 京都市立銅駝美術工芸高等学校漆芸科卒業
 京都市伝統産業技術者研修漆器コース・デザインコース修了
 平成18年 家元へ出仕 塗師中村宗哲十三代襲名



すわ そざん
 四代諏訪蘇山氏(焼物作家)

京都市生まれ 父三代諏訪蘇山・母十二代中村宗哲の三女
 京都市立銅駝美術工芸高等学校漆芸科卒業
 成安女子短期大学造形芸術科
 グラフィックデザインコース映像専攻卒業・専攻科修了
 京都府立陶工高等技術専門学校校成形科・研究科修了
 京都市伝統産業技術者研修陶磁器コース本科修了
 平成14年 四代諏訪蘇山襲名



たかくわせんざい
 三代高葉泉齋氏(山中漆器・塗師)

現加賀市山中温泉生まれ 父二代泉齋の長男
 石川県立大聖寺高等学校卒業 金沢美術工芸大学卒業
 昭和35年より家業に従事 昭和61年 泉齋襲名
 平成14年～29年 石川県九谷焼美術館管理員

